

# つなぐ

## 町内会 連合会 新役員・主な事業紹介

恵庭市町内会連合会の、本年度役員及び事業、事業予算の概要についてお知らせします。  
市町連では、地域のつながりや安心・安全のまちづくりに向けた取り組みの、一層の強化を図ってまいります。

### 新年度役員紹介



恵庭市町内会連合会会長  
小川 晃平 (京町町内会長)

【ご挨拶】

恵庭市町内会連合会では、町内会・自治会活動に必要な情報の提供や調査研究をとおして、明るく住みよいまちづくりを推進する、さまざまな事業を展開しています。

広報紙「つなぐ」は、そうした活動を紹介しながら市民と地域をつなぐ、町内会活動に興味をもち、参加いただけるよう、今年度、大幅に紙面をリニューアルしました。  
今後「まち」や「人」のさまざまな情報をお届けしてまいりますので、変わらぬご理解、ご協力をお願いします。  
恵庭市町内会連合会会長  
小川 晃平



副会長 野原 聡  
大町町内会長



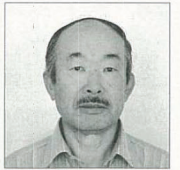
副会長 小林克己  
恵み野北町内会長



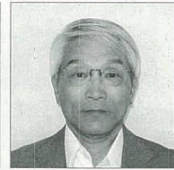
副会長 今井剛幸  
島松寿町町内会長



副会長 本田繁彦  
西島松町内会長



事務局長 坂上信之  
柏木町内会長



事務局長 玉熊隆昭  
北柏木町内会長



会計長 下原干城  
駒場南町内会長

理事	神代和義 (上山口町内会長)
//	中川一男 (福住町1丁目町内会長)
//	高橋利雄 (柏陽町西町内会長)
//	山形 孝 (恵み野東町内会長)
//	鏡 貢 (島松本町町内会長)
//	長谷川秀寿 (北島町内会長)
監査役	三浦 功 (有明町町内会長)
//	堀山昭宏 (駒場中央町内会長)
//	鈴木博隆 (中ノ研町内会長)

事業計画 及び 予算概要	1. 町連広報紙発行 (予算額 8万円)
	2. ひとりの不幸をみのがさない運動・防災活動支援事業 (33万円)
	3. 町内会あり方検討 (12万円)
	4. 会員加入促進 パンフレット作成 (30万円)
	5. 視察研修・研修会等 (53万円)

### 報告2 あり方 検討部会

## 先進地(鶴)視察研修報告

【報告者】 あり方検討部会副会長 玉熊隆昭

現在、市町連の課題としてとらえている「関係団体への役員派遣」「単位町内会・自治会加入率の向上策」「行政と町内会・自治会の関わり」などへの取り組みとして、6月21日に先進地である「登別市連合町内会」と「白老町町内会連合会」に出向き研修しました。

### 報告 要旨 キーワードは 「協働」「自主的活動」

登別市では、本市とは異なり、連合会が専任の事務局長を雇用し事業を展開しています。

組織構成は「総務部会」「事業部会」「生活安全部会」「環境部会」の4部会。この体制のもと、市の財政難を契機として、それまで市が行ってきた市民サービスのうち、連合会が出来るサービスは積極的に引き受けるなど、市の下請け機能ではな



この日の研修には「あり方検討部会」から7人のメンバーが参加。登別市と白老町の取り組みに関する説明に、熱心に耳を傾けていた。

く、協働のまちづくりに向けて、市と対等な立場で活動を展開している姿勢に共感を覚えました。  
白老町では、町連事務局を行政内に設置していた時期もありましたが、今は独立させ、行政と一線を引きつつ、協働のまちづくりを進めています。現在の事務局は、「町民活動センター」に置き、スタッフを雇用して活

動していま  
す。

主な事業  
は町から受  
託した広報  
業務を、住  
民目線で取  
材・編集し  
配布も町連  
活動の一環  
として行っ  
ています。

「行政と協働のまちづくりに展開すること」を目指して「自ら出来る範囲で活動すること」、これが登別市、白老町に共通した考え方でした。

### 報告 特長 「実りある研修を 課題解決の一助に」

この度の視察では、両町内会連合会の協力のもと、活発な質疑や情報交換などもあり、実りのある研修となりました。  
町連のこうした取り組みなども参考にしながら、恵庭市町内会連合会が抱える課題解決に向けて、あり方検討部会において検討してまいります。

### 市町連活動記録

(2012.2.16 ~ 2012.8.31)

- 2.16 町内会連合会総会・表彰式開催
- 4.20 市理事者と町内会長等との懇談会
- 5.29 全道町内会連合会活動研究大会(札幌市)
- 5.30 全道町内会連合会総会(札幌市)
- 6.6 町内会長等親睦交流会開催
- 6.21 あり方検討部会先進地視察(白老町、登別市)
- 6.28 自治活動視察研修(平取町)~29日
- 7.3 町内会活動実践者研修会(札幌市)
- 7.26 市理事者と町内会長等との懇談会

その他の活動  
四役会(7回)、役員会(3回)、事業部会(1回)、広報部会(4回)、あり方検討部会(1回)

### 編集後記

◆町内会がなければ、暗くて寂しい地域となり、少しの知恵と浄財を持ち寄せれば、明るく住みよい町内会だ!!  
◆本年は力強い「つなぐ」林氏を委員に迎えた。お二人は編集の専門的知識をもち、とても頼りになる存在です。  
◆「つなぐ」タイトル変更と内容の充実を目指し検討を重ねた。原稿執筆者などの協力を得ていよいよ発行。  
◆記事に合った動きのある写真がほしいとの注文。安請け合いしたが難しい。  
◆出来映えが楽しみです。  
◆今回のモデルケース、市の生活環境部の皆さんに手伝っていただき、やっと成就。ありがとうございました。  
林

募集!  
紙面に紹介したいユニークな活動をしている人、がんばれる人の情報をお寄せください。

発行  
恵庭市町内会連合会  
広報部会  
事務局  
恵庭市役所  
市民活動推進課内  
(☎33-3131)

**食糧需給率減少と平均寿命の短命化**

1つ目の問題は、農家の力が衰弱していることです。高齢化により生産性が低下し、国内の食糧自給率が30%にまで落ちていきます。国民総体制で農業を支える取り組みが必要だし、農家の労働力を若く

講師の小泉武夫さんは、現代の日本の食文化が抱える大きな2つの問題と、食をとおした取り組みにより、豊かな地域社会を創造できるとお話されました。

**報告**  
**講演会**  
**食の安心・安全を通して地域の絆を考える**

東京農業大学名誉教授 小泉武夫氏



市町村の親善大使やアドバイザーも務める小泉先生。テレビや著作などを通して、発酵食品の素晴らしさや優秀性のPR活動も幅広く展開している。

# 全道町内会活動研究大会

■報告1 テーマは「安全・安心をめざした地域の絆づくり」

平成24年度の「全道町内会活動研究大会」が5月29日、札幌市の「かでの2・7」を会場に開催されました。研究大会では、基調説明、講演のほか、町内会活動に長年、尽力された個人、団体の方々の表彰式も行なわれ、恵庭からは2人の町内会長と1つの町内会が受賞されましたので、あわせてご報告します。

することが急務です。若者に農業を委ねるようにすると、まちにも活気が出てくるのではないのでしょうか。

2つ目の問題は、日本人の寿命が下がり出したことです。日本人の体が、食生活の西洋化についていけないようになっていきます。日本人は長い間、

**表彰式**  
**長年のご苦労を讃えて功労者表彰等受賞**

研究大会では、「北海道町内会連合会表彰」の表彰式が行なわれました。恵庭市からは「功労者表彰」として京町町内会長の小川晃平さんと川治町内会長の榎本傑さんが受賞。「優良組織表彰」として桜町町内会が受賞されました。

こうした問題を解決するために、和食を食べる運動や「地産地消」を意識した生活を心がけてほしい。そういう生活を通して農業をもっと身近に感じ、若い力が農業にそそがれ、地方から豊かな地域社会が創造できるのではないのでしょうか。

**地産地消で地方を豊かにする**

主に野菜を食べ、腸の運動を活発にし免疫力を高めてきました。食生活の西洋化による弊害が、平均寿命の短命化に現れていると考えられます。



「新聞よりも情報が早いね」って町内の方に言われたりするとうれしいですね。

島松仲町町内会長 鶴田 力さん

●つるたつとむさん/夕張市生まれ(72歳) 2006年1月島松仲町町内会長に就任し、以降、毎週「島松仲町町内会だより」を発行。丁寧な取材による地元の話や行政情報などをわかりやすく紹介している。元島松郵便局長。



折られたとか、島小の子どもたちがごみ拾いをしてくれた、早朝パークゴルフを開催したといった、地域の情報を旬のうちに掲載するようにしています。「新聞や市の広報よりも早い

**地域情報を地域に伝える「定期便」**

身近な情報をわかりやすく載せた、町内の情報紙があれば喜ばれるのでは、そう思い立ったのが初めなんです。会長就任の翌月には第1号の「町内会便り」を発行して、その後は毎週1回発行。最近、372号を出したところです。

私どもの町内会も、ご多分にもれず高齢化していて、全道や全国の情報は、テレビや新聞でリアルタイムに入りますが、意外と町内のことや人の情報を知らない。「なかもち公園」の姫りんこの枝が折られたとか、島小の子どもたちがごみ拾いをしてくれて、早朝パークゴルフを開催したといった、地域の情報を旬のうちに掲載するようにしています。「新聞や市の広報よりも早い



ねって、驚かれたりします。そんな反響があった時がうれしいですね。伝えたい情報を分かりやすく提供

私自身、コミュニケーション放送局長の経験を生かし、まちの情報にアテナを張りながら、いつも伝えたい情報は何かということを考えています。ですから、行政情報も載せるようにしています。

最近では「島松公民館大規模改修計画」や「島松駅バリアフリー構想」は、まちの人の関心も高いので、紙面でもお知らせしたんです。

写真は大きく、文字は少なめ、印刷はカラーで、見やすく、読んでいただける工夫も欠かせません。限られた紙面です、その分、苦労するんですが、今は、町内会創立50周年事業として沿革史の編さんもしています。これが結構大変な作業。でも、やりがいを感じるし、まちを知られるほど愛着がわいてきます。

これからも、地域の人たちの顔が見え、つながっていただけるように、町内会長として、そして「町内会だより」をとおして、活動していきたいと思っています。

今から120年前、現在の恵庭公園から自衛隊南恵庭駐屯地の一帯は、牛や馬の放牧地でした。明治9年のことです。官設「漁村放牧場」という名前がつけられ、牛75頭、馬111頭が飼育され、その後、頭数は増えていきました。明治10年、クラーク博士が帰国する際、ここに立ち寄ったという記録もあります。今、恵庭は道内でもトップクラスの「酪農王国」と呼ばれています。その基礎が、



教えて!  
「駒場町」の町名の由来

このころに築かれたのかもしれない。正式に「駒場町」と決めたのは、町議会の議決を得た昭和36年のこと。当時の広報誌によると、「馬(駒)」が放牧され、牧場が道庁の真駒内牧場の支場だったことから「駒場町」としました。



○富設「漁村放牧場」